

## 5 県政に関しての意見（問31、報告書p.147～157）

### 【結果概要】

#### ①担当課

知事公室 広報課

#### ②調査目的

選択式質問においては、あらかじめ想定された選択肢に沿った回答が求められるため、県民意見の全体像を把握するのは困難である。このようなことから、広く県政に関する意見を聴取するために、自由記述による質問を実施し、テキストマイニング（自然言語処理）により、全体意見の要約と可視化、回答者属性による傾向の把握などを行う。

#### ③調査結果の分析・考察

- 県政に関しての意見として得られた自由記述回答は、テキストマイニングにより集計および可視化分析を行う。テキストマイニングは、文章をまずキーワードに分割し（形態素解析）、分割したキーワードの出現頻度およびキーワード間の関係性を集計し、各種統計手法により可視化、分析することを基本とする。本調査では、回答者全体の話題の要約および可視化のために共起ネットワークグラフを用い、性別や年代、居住地などの回答者属性別の傾向の分析に対応分析を用いる。
- 共起ネットワークグラフは、一つの文章内で同時に出現（共起）するキーワード間に何らかの関連性があると仮定して集計し、出現頻度が上位のキーワード（点）と関連性（線）から成るネットワークグラフとして可視化したものである。共起ネットワークグラフは、数理的手法により内部の密接につながる密度の高いキーワード構造を特定することが可能であり、これら内部のサブ構造は特定の話題を要約したものに対応すると考えることができる。また、共起ネットワークグラフで特定可能な話題は、出現頻度が上位のキーワードから構成されている主要な話題が中心であり、比較的出現頻度が低いキーワードから構成されている話題は特定が困難な点については注意が必要である。
- 対応分析は、回答者属性別（性別、年代、職業など）に、出現キーワードの特徴を2次元空間に表示したものであり、属性とキーワードが近い位置にプロットされるものは、その属性に特徴的に出現するキーワードであると考えられる。また、対応分析では、基本的には横軸（第1軸）と縦軸（第2軸）の2次元空間上に関係性をプロットするが、全体の位置関係の特徴（慣性）がどの程度説明されているかは、成分（%）によって表されている。この成分（%）が低いと、得られた2次元空間上のグラフでは、特徴が説明しきれていない可能性が高く、表示されている位置関係が偶発的に生じている可能性が高い点については注意が必要である。
- 共起ネットワークグラフによる可視化の結果、主要な話題を5つ特定することができた。その中で特定された話題のサブ構造を構成するキーワード数やその出現頻度を表す円の大きさより、「自然環境の豊かさや住みやすさなどの生活に関する話題」および「琵琶湖の魅力発信による観光客へのアピールに関する話題」、「電車やバス交通の不便さや商業施設などへのアクセスに関する話題」、「公共交通機関や医療機関などの充実による高齢化社会対策に関する話題」、「道路渋滞や自転車道整備などの道路交通に関する話題」についてが、県民が比較的高い関心を持つ県政話題であると考えられる。また、サブ構造を構成しているキーワード間の関係構造より、最も大きな話題を構成していたのは「自然環境の豊かさや住みやすさなどの生活に関する話題であり、滋賀県の琵琶湖をはじめとする豊かな自然環境や住みやすい環境について大きな関心事であると考えられる。

- 対応分析の結果、問1の性別では、「女性」は子育てや高齢者福祉、災害、公共交通などの生活に関する話題が特徴的で、「男性」は琵琶湖をはじめとする豊かな自然環境などの魅力発信と観光対策、医療政策などに関する話題が特徴的であり、ジェンダーバランスの偏りが見られる。
- 問2の年代では、「18歳-19歳」のグループから「75歳以上」グループが年代順に隣接しており、ライフステージの違いによる問題関心の移行を表れていると考えられる。「18-19歳」グループは、電車の本数を中心とした公共交通機関についてや、県外との関係性に関する話題が特徴的であった。「20-34歳」グループは、大学などの学校生活や滋賀の仕事に関する話題などが特徴的であった。「35-49歳」グループは、子育て環境についてや子供たちの学校教育支援などに関する話題が特徴的であった。「50-64歳」グループは、県内の企業支援や高齢化社会への対応などに関する話題が特徴的であった。「65-74歳」、「75歳以上」グループは、琵琶湖の環境保全や人口減少対策、道路渋滞などへの対応としての道路整備などに関する話題が特徴的であった。
- 問3の地域別は、「大津地域」と「甲賀地域」、「湖南地域」、「東近江地域」、「湖東地域」のグループは、原点付近にまとまって分布し、第2軸上に「湖西地域」と「湖北地域」がそれぞれ両端に分布しており、地域の傾向を示していると考えられる。「大津地域」と「甲賀地域」、「湖南地域」、「東近江地域」、「湖東地域」のグループは、琵琶湖をはじめとする豊かな自然環境保全や県外などへの魅力発信、公共交通機関の充実などに関する話題が特徴的であった。「湖西地域」は、道路交通の不便さに関する話題が特徴的で、湖北地域は、医療や生活支援、外国人感観光客などに関する話題が特徴的であった。
- 問4の職業別は、「常勤」と「自営業・自由業」、「その他」のグループは、関心が比較的共通しており、子育て環境や観光などに関する話題が特徴的であった。「学生」のグループは、通学などに関する電車の本数や、滋賀が持っている魅力についての情報発信に関する話題が特徴的であった。「パート等」のグループは、公共交通の中でも特にバス交通の不便さや子供たちの学校教育に関する話題が特徴的であった。「家事専業」のグループは、滋賀県の災害の少なさや自転車交通の整備やマナーに関する話題が特徴的であった。
- 問5の居住履歴では、各グループがそれぞれ独立して位置しており、居住歴の違いによる他地域との生活経験の比較により、関心となる話題が異なると考えられる。「生まれてからずっと滋賀県に住んでいる」グループは、観光や文化、外国人観光客対応に関する話題が特徴的であった。「滋賀県で生まれて県外に転出後、再び転入した」グループは、子育て環境の良さや学校教育の充実化への要望、自転車などの道路交通整備に関する話題が特徴的であった。「県外で生まれて滋賀県に転入した」グループは、琵琶湖をはじめとする自然環境の豊かさや災害の少なさに関する話題が特徴的であった。
- 問6の今後の滋賀への居住意向では、各グループが独立して位置しており、居住意向の違いで関心となる話題が異なると考えられる。「滋賀に住み続けたいと思う」グループは、琵琶湖を始めとする自然環境の豊かさや災害が少ないなど、住環境の良さに関するポジティブな話題が特徴的であった。「どちらとも言えない」グループは、電車など公共交通の充実化や道路渋滞対策、県政の不透明さなどに関する比較的ネガティブな話題が特徴的であった。「住み続けたいとは思わない」グループは、近隣の大阪など他府県との比較において、学校教育などの充実化や企業立地などに関する話題が特徴的であった。
- 問7の滋賀に誇りを持っているかでは、「持っている」のグループは、琵琶湖をはじめとする自然環境の豊かさに関する話題が特徴的であった。「どちらかというを持っている」と「あまり持っていない」のグループは関心が比較的共通しており、公共交通や教育施設の充実化に関する話題が特徴的であった。
- 問8の県政に関心をもっているかでは、「関心がある」グループは、教育および人口対策に

関する話題が特徴的であった。「まあまあ関心がある」グループは、琵琶湖や観光対策などに関する話題が特徴的であった。「あまり関心がない」グループは、電車の本数の少なさや若者対策や県内施設の充実化、仕事に関する話題が特徴的であった。

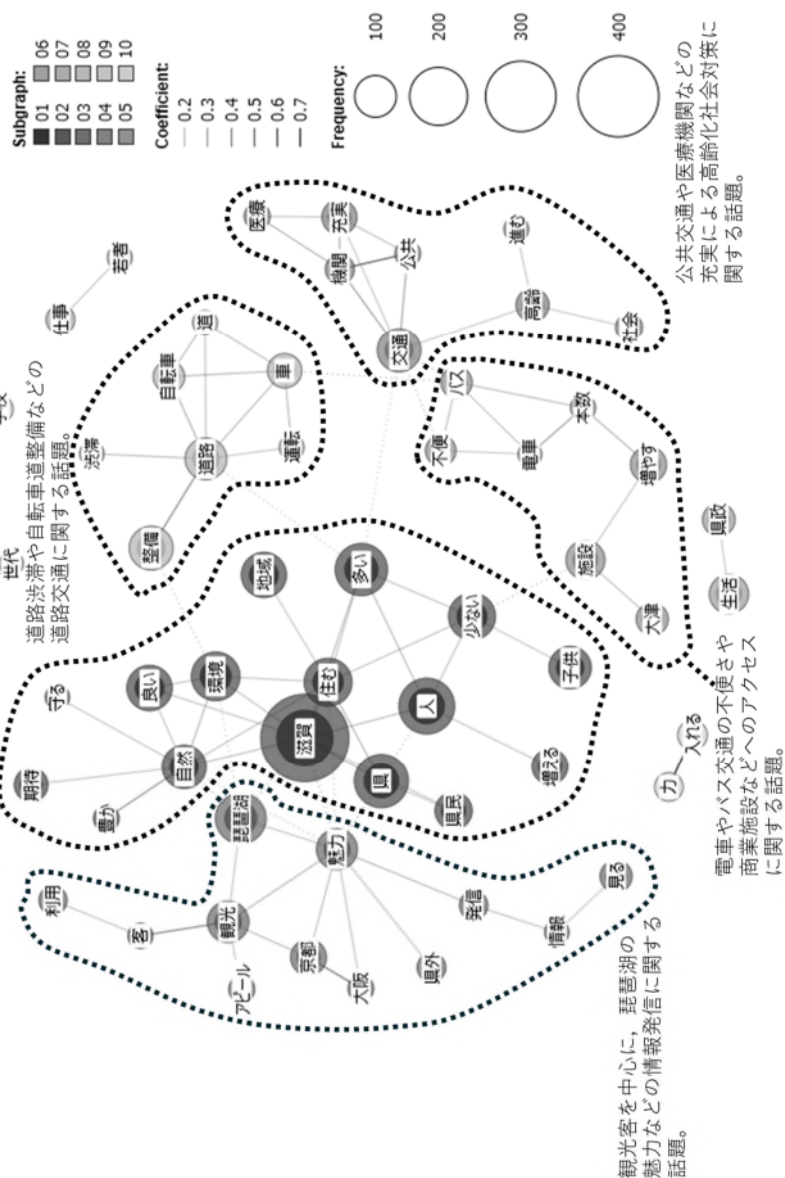
#### ④今後の施策への反映

可視化分析の結果を関係所属と共有し、今後の政策形成に参照・活用する。

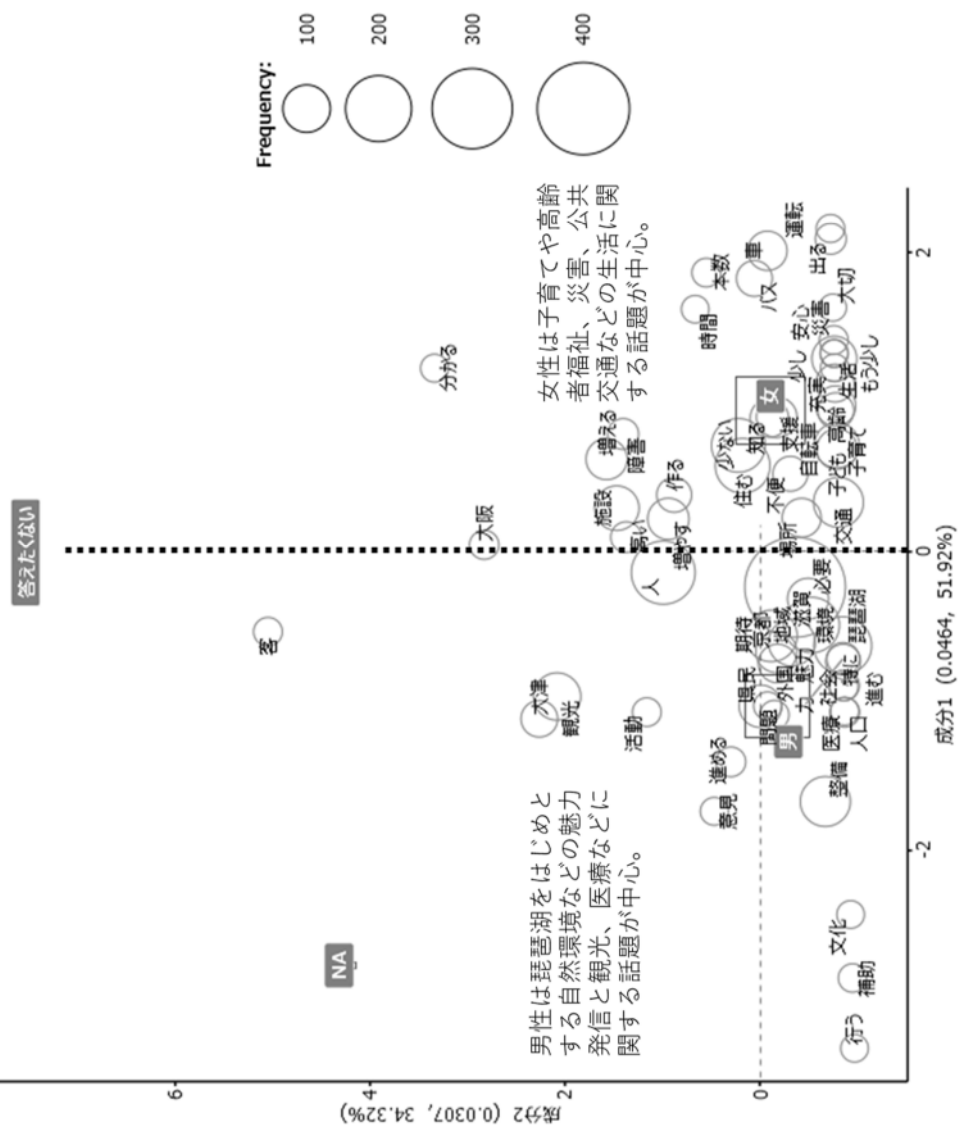
問31 滋賀県について、期待すること、不満に思うこと、他の都道府県にない魅力など、ご意見がありましたらご記入ください。  
◎文章なら 400 字以内で、絵・短歌・俳句でもかまいません。

問31 「県政に関しての意見」共起ネットワークグラフによる要約

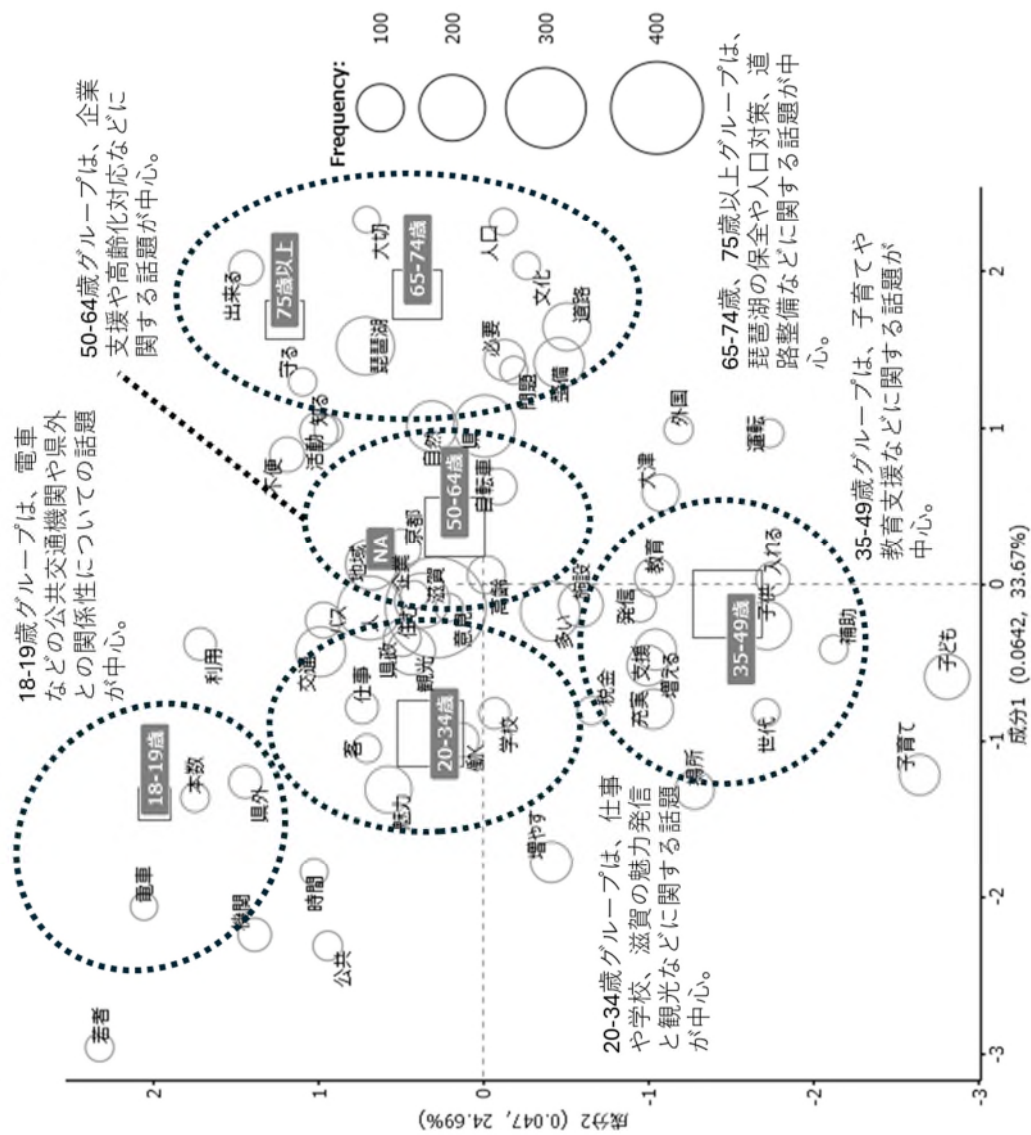
支援——子育て



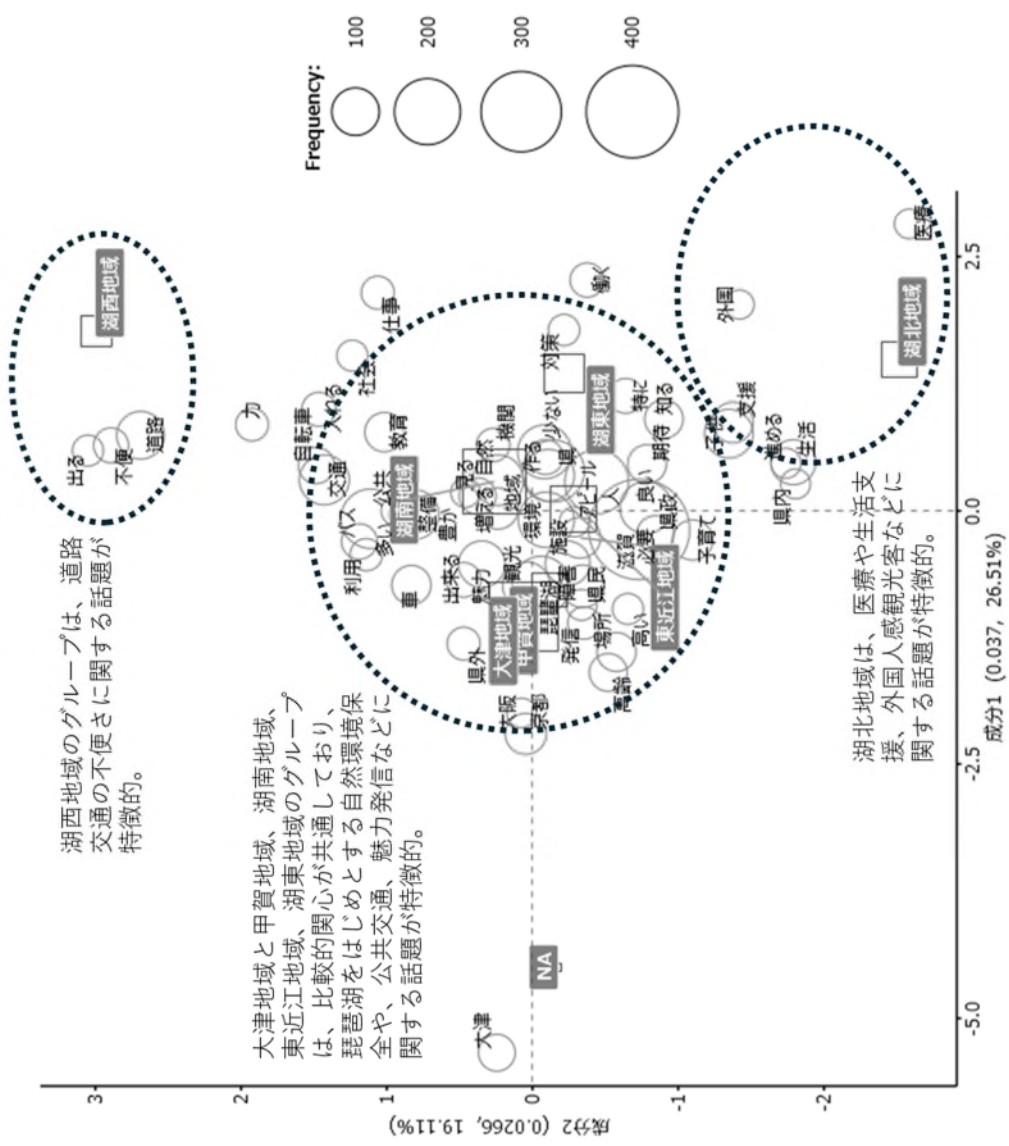
問1「性別」と問31「県政についての意見」対応分析による特徴の把握



問2「年齢」と問31「県政についての意見」対応分析による特徴の把握



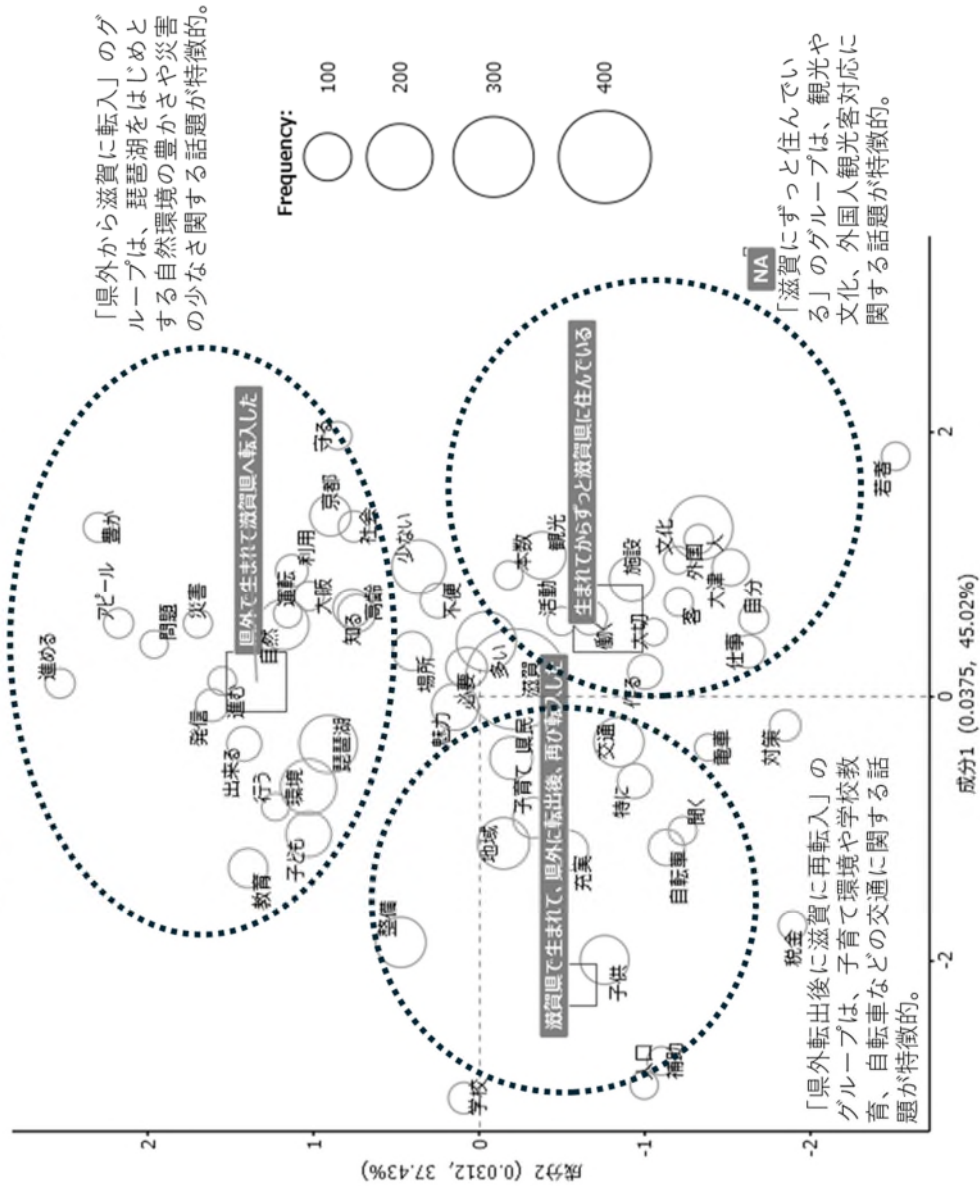
問3「居住地域」と問31「県政についての意見」対応分析による特徴の把握



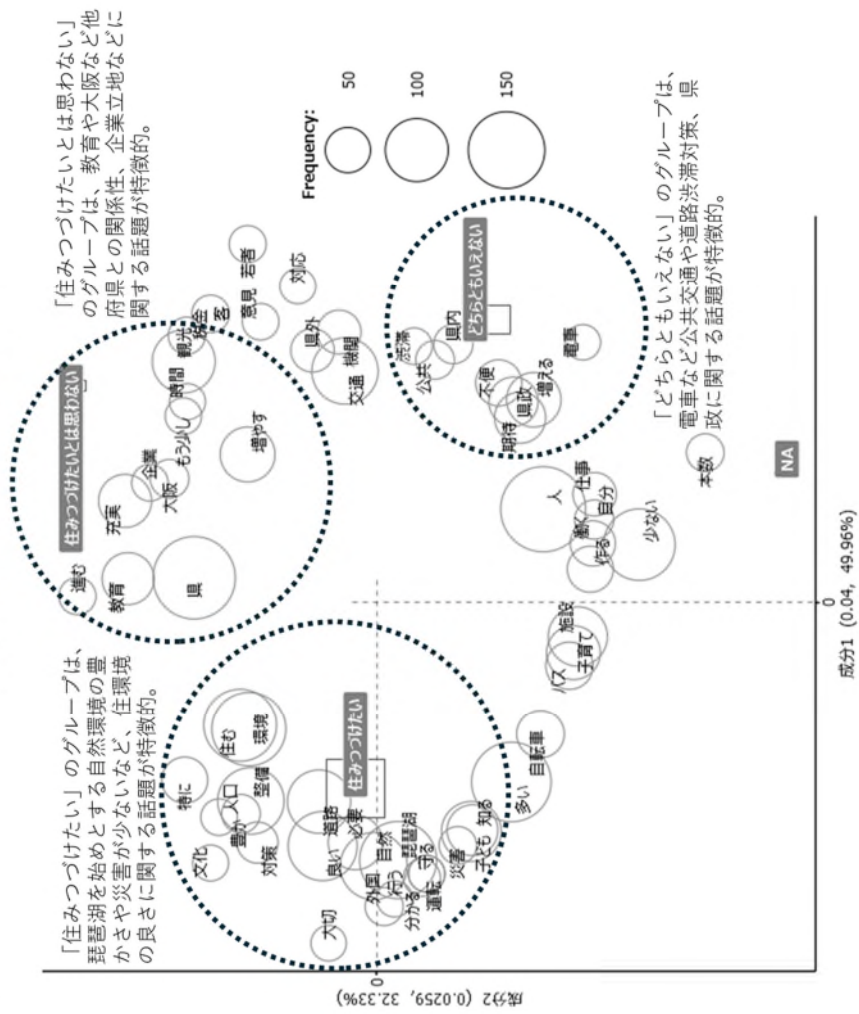




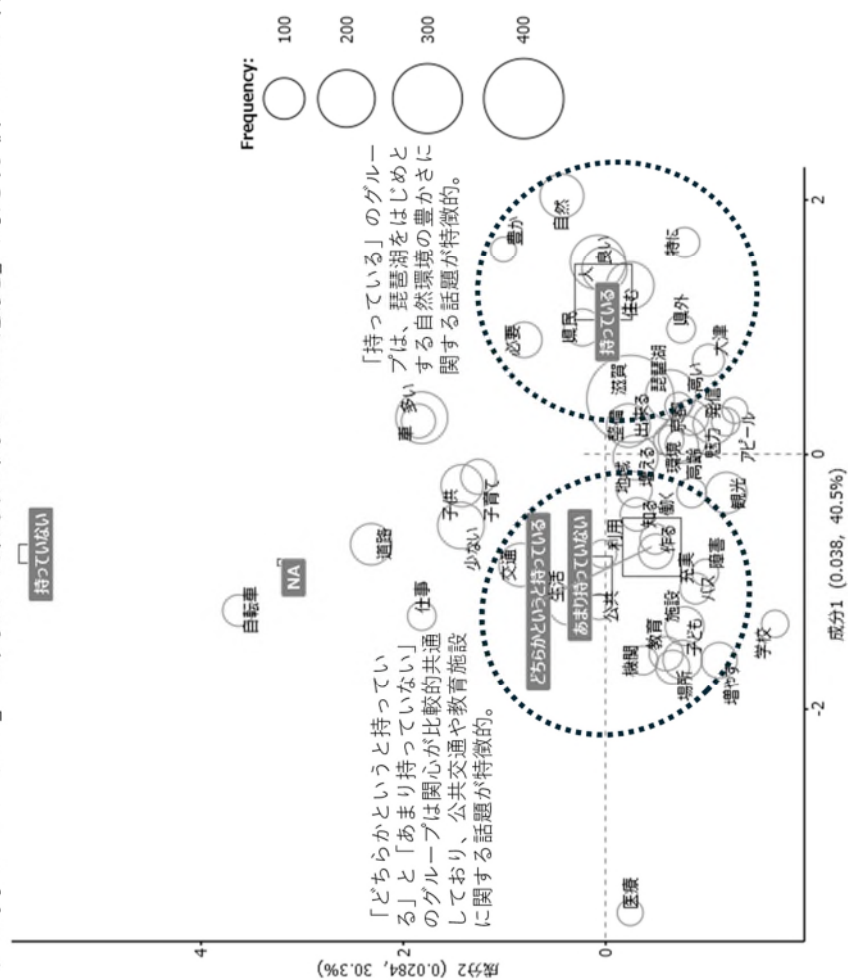
問5「居住履歴」と問31「県政に関しての意見」対応分析による特徴の把握



問6「滋賀に住み続けたいか」と問31「県政についての意見」対応分析による特徴の把握



問7「誇りを持っているか」と問31「県政に関しての意見」対応分析による特徴の把握



問8「県政への関心」と問31「県政に関する意見」対応分析による特徴の把握

